

平成27年6月1日

松山河川国道事務所

国道33号^{まつやまそとかんじょう}松山外環状道路インター線（市坪IC^{いちつぼ}～余戸南IC^{ようごみなみ}）
の開通1ヶ月後の交通状況やストック効果について
～新たなルートによるストック効果が出ています～

3月21日（土）に国道33号^{まつやまそとかんじょう}松山外環状道路インター線（以下「外環インター線」）
市坪IC^{いちつぼ}～余戸南IC^{ようごみなみ}間が開通したことによる1ヶ月後の交通状況やストック効果について
お知らせします。

1. 国道56号から松山IC間のアクセス性が向上

- ・国道56号から松山IC間の所要時間が**約6割短縮**

開通前（国道56号～市道松山環状線～国道33号経由）約16分 → 開通後（外環インター線経由）約7分

2. 外環インター線部分開通後の交通状況

- ・外環インター線を利用する交通量が**約3割増加**
- ・並行する県道久米垣生線の交通量が**約1割減少**

開通前 約9,000台/12h → 開通後 約8,100台/12h

- ・松山ICから国道56号に向かう新たなルートができ、
松山ICから国道56号方面への交通量が**約1割増加**

開通前 約3,400台/12h → 開通後 約3,900台/12h

3. 通学路の安全性が向上

- ・抜け道利用が減り県道久米垣生線の通学時間帯の交通量が**約2割減少**

H25年度（開通前）約1,700台/2h → H27年度（開通後）約1,300台/2h

※通学時間帯 朝7:00～9:00 2時間の交通量

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって継続的に中長期的に得られる効果

※今後も引き続き調査を行い、ストック効果を検証していきます。

本施策は、四国圏広域地方計画「No.5圏域の連携による発展に向けた地域力向上プロジェクト」及び「No.6防災力向上プロジェクト」の取り組みに該当します。

問い合わせ先：四国地方整備局 松山河川国道事務所 計画課

事業対策官：大西^{おおにし}良明^{よしあき}（内線：208）

◎ 計画課長：高井^{たかい}健一^{けんいち}（内線：261）

代表 089-972-0034

直通 089-972-0415

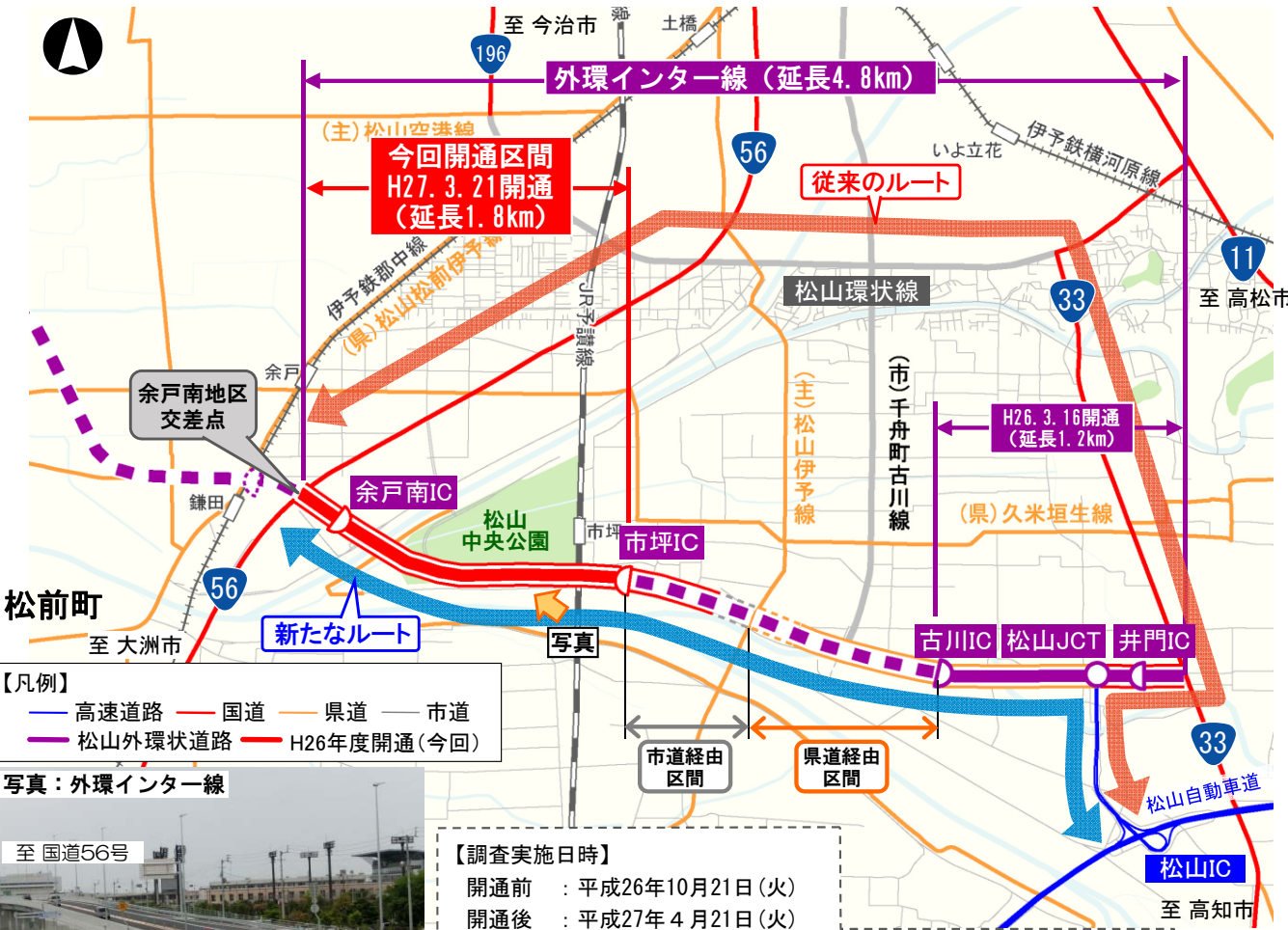
FAX 089-972-8117

1. 国道56号から松山IC間のアクセス性が向上

○国道56号の余戸南地区交差点から松山IC間の所要時間が従来のルートと比べて、**約6割短縮**しました。

○朝夕のピーク時でも、外環インター線を利用したルートが従来のルートより**約5割短縮**しています。

所要時間の変化



- 【凡例】
- 高速道路
 - 国道
 - 県道
 - 市道
 - 松山外環状道路
 - H26年度開通(今回)

写真：外環インター線



【調査実施日時】

- 開通前 : 平成26年10月21日(火)
- 開通後 : 平成27年4月21日(火)
- ※所要時間は朝7:00~夕方19:00の調査結果
- ※平均所要時間とは朝7:00~夕方19:00までで、1時間おきに実測調査した上下方向の所要時間の平均
- ※ピーク時の時間帯は、朝7:00~10:00 夕16:00~19:00
- ※ピーク時最大所要時間とは、調査時間内で移動に要した最大の時間

余戸南地区交差点～松山IC間の所要時間

平均所要時間

開通前
(従来のルート)

約16分

開通後
(新たなルート)

約7分

約6割短縮

ピーク時最大所要時間

開通前
(従来のルート)

約20分

開通後
(新たなルート)

約11分

約5割短縮

【松前町在住者の声】

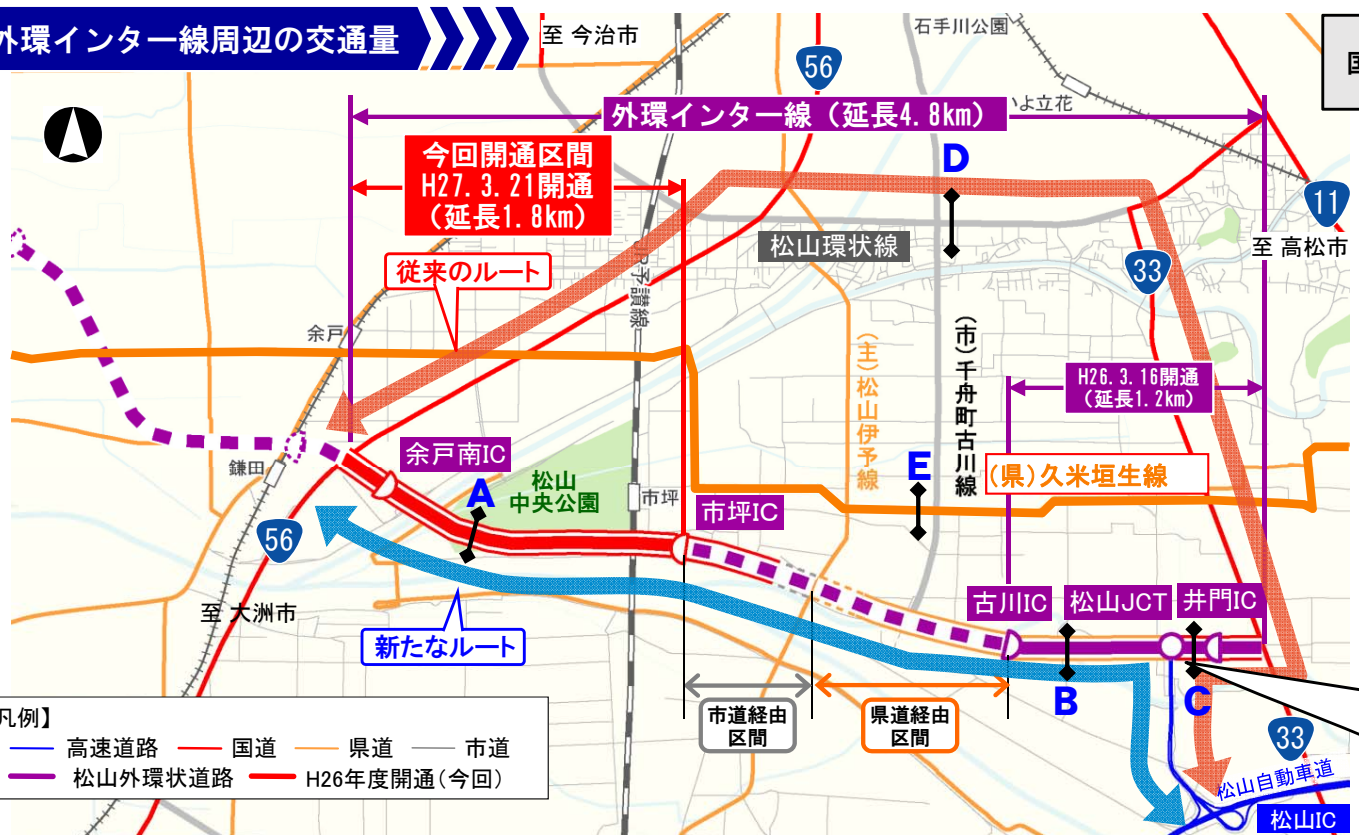


松山ICや砥部方面に向かうのに便利になったので、外環を利用する機会は増えると思う。

2. 外環インター線部分開通後の交通状況

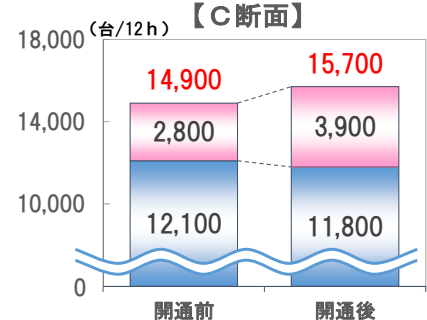
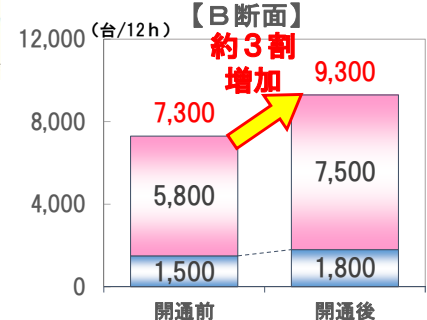
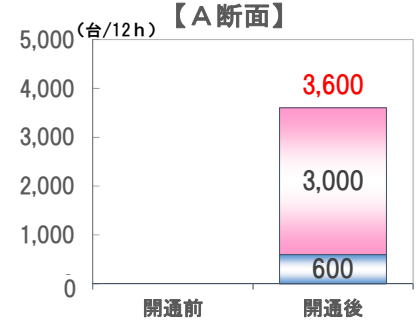
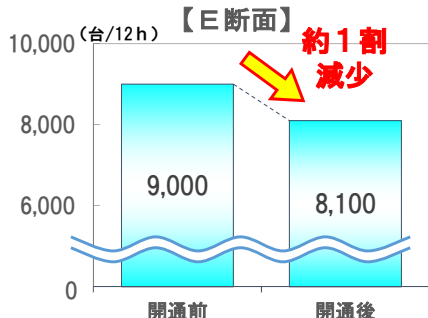
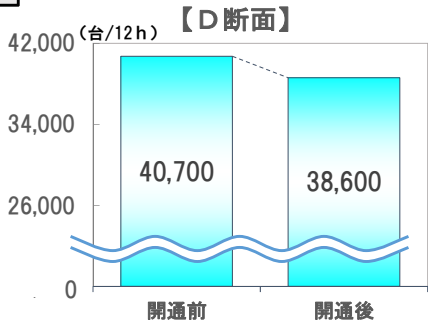
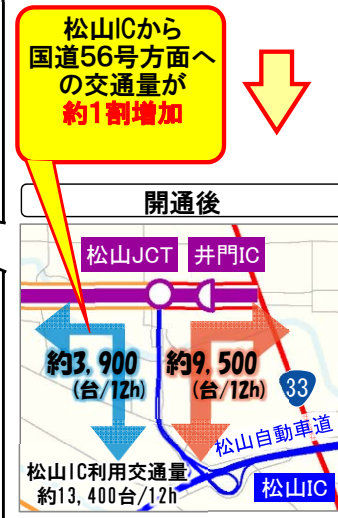
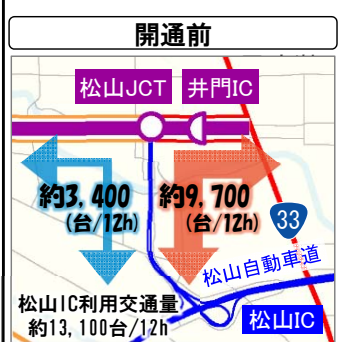
- 外環インター線を利用する交通量が**約3割増加**しています。
- 外環インター線に並行する県道久米垣生線の交通量が**約1割減少**しています。
- 松山ICから国道56号に向かう新たなルートができ、松山ICから国道56号方面への交通量が**約1割増加**しています。

外環インター線周辺の交通量



【凡例】
 高速道路 国道 県道 市道
 松山外環状道路 H26年度開通(今回)

松山ICから
 国道56号, 国道33号方面への
 交通量の変化



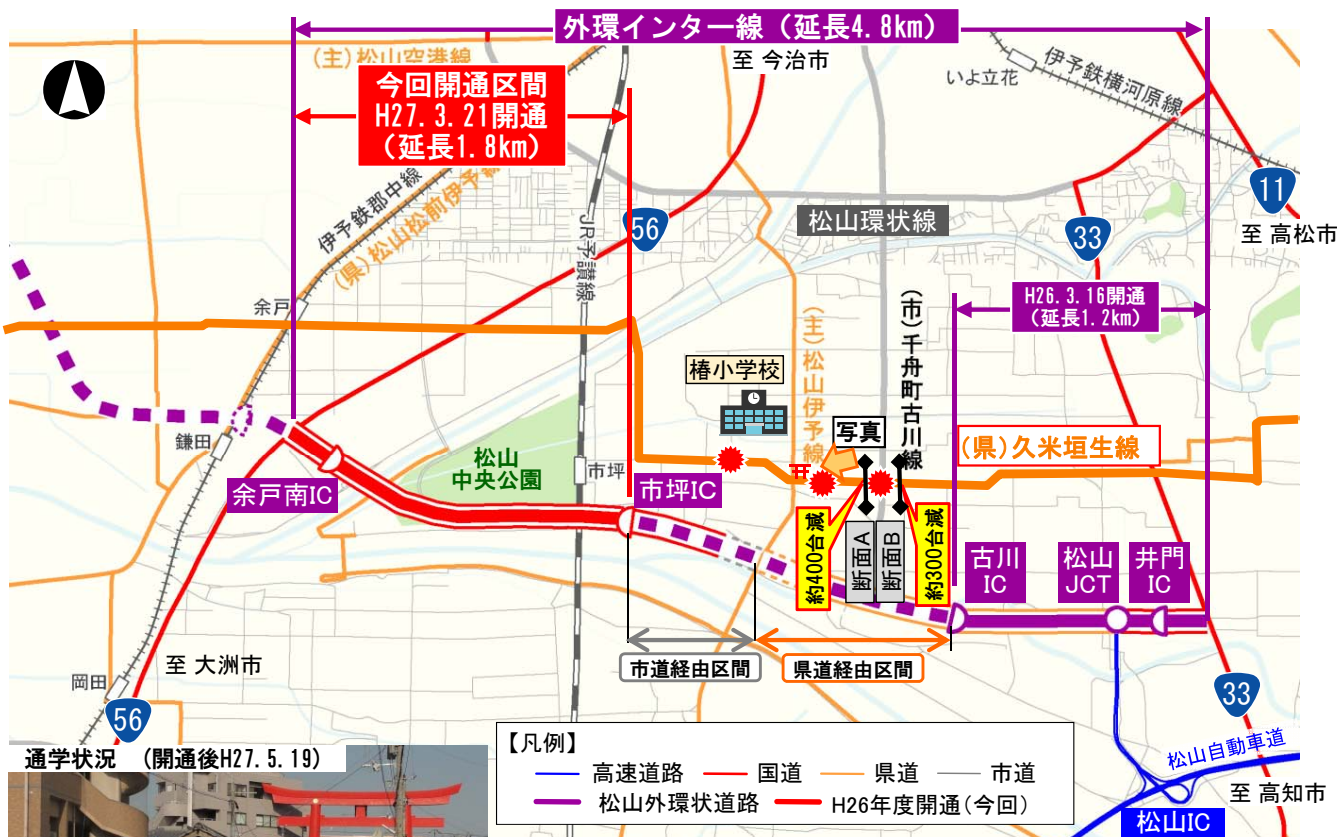
凡例
 自動車専用道路交通量
 側道交通量

【調査実施日時】
 開通前 : 平成26年10月21日(火) 7:00~19:00
 開通後 : 平成27年4月21日(火) 7:00~19:00

3. 通学路の安全性が向上

○ 抜け道利用の多かった県道久米垣生線は、H25年度（開通前）と比べると通学時間帯 朝7:00~9:00の交通量が**約2割減少**し、**通学路の安全性が向上**しています。

並行する県道の交通量の変化

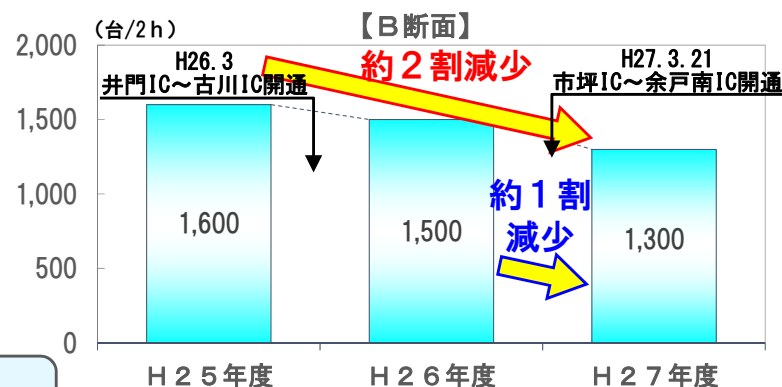
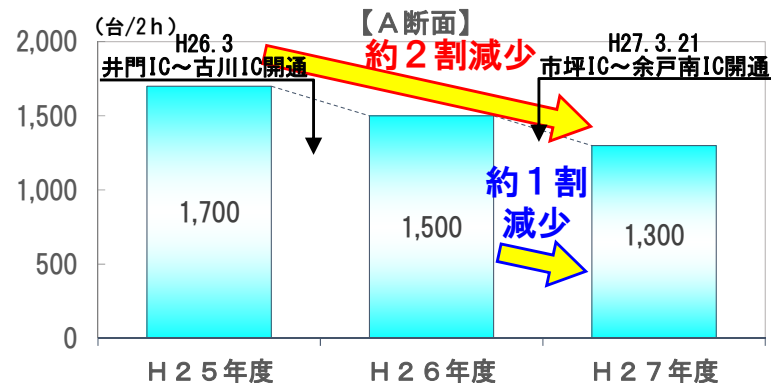


※ 赤い花マーク 子ども目線の交通安全マップ「とくに車が多いところ」
 【出典: 子ども目線の安全交通マップ(松山市HPより)】

【並行路線周辺の声】

- ・ 学校周辺の道路を抜け道利用していた車が減って、通学時の安全性が向上していると思います。
 <榑小学校関係者>
- ・ 県道久米垣生線の交通量が減ったと思う。
 ・ 児童の横断時に、車を止めやすくなったと思う。
 <交通指導(父兄)>

県道久米垣生線 (通学時間帯 朝7:00~9:00の交通量)



【調査実施日時】(資料: 交通量調査結果)
 H25年度(開通前) : 平成25年11月13日(水) 7:00~9:00
 H26年度(開通前) : 平成26年10月21日(火) 7:00~9:00
 H27年度(開通後) : 平成27年4月21日(火) 7:00~9:00